
星に願う～君との約束～

彩瀬姫

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

星に願う君との約束

【Nコード】

N3161H

【作者名】

彩瀬姫

【あらすじ】

公園に二人で星を見にきていた。君は星に負けないぐらいにキラキラと目を輝かせていた。俺は君が好きで、君も俺が好き。でもこの気持ちは……。

（前書き）

この話はボーイズラブです。苦手な方はご注意ください。

「ねえねえ！きてきて！ーあそこにおほしさまがいつぱい」

ここは家の近くの公園。この公園は綺麗に星が見えるち有名で『星空公園』と呼ばれている。

もう日も暮れて、星が輝き始めていた。

君は星を見つけて指差した。きてきてと言われなくても、星はどこからでも見えるのに、ここに来てと言う君の初々しさを見て、うつすら微笑む。

「ああ。お星様がいつぱいだな」

君はとてもウキウキしているのか、俺の服の裾を握って強く引っ張っている。服の裾が伸びてしまう……何て気にしない。君の可愛い姿を見てしまえば、何も気にならない。

「ああ！ー」

君が指さした方向を見たら、星が落ちてきた。流れ星だ。流れ星を見た君は目を瞑って手を組み、呪文のように同じ言葉を繰り返し始めた。

「えつと……およめさんになれますように、およめさんになれますように……ってああ！ーおほしさま、きえちゃったあ……」

3回目を言う前に星は消えてしまった。君は悲しそうに俯く。

君は男の子だからお嫁さんになれないのだが、必至に流れ星をお願いごとをしていたから訊いてみた。

「誰のお嫁さんになりたいの？」

「は……んのおよめさんになりたい」

君はとても恥ずかしそうに、でもしっかり俺の耳には届いた。

その言葉を聞いて俺は、とても嬉しいような、悲しいような複雑な気持ちになった。とても胸が苦しい。

でもその気持ちを君には見せない。——だって君はまだ幼いから。

「そっか嬉しいな。じゃあ俺のお嫁さんにしてやるよ」

満面の笑みを見せると、彼はキラキラと目を輝かせた。

「本当！？はるかにいちゃん！！」

君は今、本当に俺のお嫁さんになろうとしてくれてる。でもそれが本当には叶わないこと知らないのだ。

子供は残酷だ。

きつと君は忘れてしまうのだろう。君が俺のことを好きだったことを。

記憶の端に追いやってしまうのだ。小さい頃の記憶は知らず知らずに忘れてしまうものだ。

それはきつと君にとって幸せなことだとしても、俺は不幸のどん底の落とされるだけだ。

俺は覚えているから、君のその言葉を。忘れられないから、君の暖かい眼差しを。

俺達は男同士だ。結婚できないから、君は俺のお嫁さんにはなれない。それに俺達は……兄弟だから一生結ばれることなんてないんだ。

——だから、今だけでいい。甘い夢を見させて下さい。

俺は誰にも聞こえないように、誰にもわからないように、天の向こう側に小さく祈った。

（後書き）

こんにちは、彩瀬姫です。

この話は元々、連続小説だったのですが、なかなか後の話ができなくて、最初の話だけを短編として載せてみました。

切ない感じが出せているといいなと思います。

読んで頂き、有難うございました！！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3161h/>

星に願う～君との約束～

2010年11月3日02時26分発行